

国際学会に参加して

情報工学府情報システム専攻M2 浜野 倅太



はじめに

平成26年12月15日〜18日に、ニュージーランド・ダニーデンのオタゴ大学で開催された国際会議「The Tenth International Conference on Simulated Evolution And Learning (SEAL 2014)」に参加し、研究発表を行いました。

研究内容

私の所属する研究室では進化計算に関する研究を行っております。進化計算とは生物の遺伝や進化の仕組みに着想を得た最適化手法のことです。私の研究テーマは、「発生タイミング進化的型アルゴリズムの提案

と評価」です。従来の進化アルゴリズムに存在する問題点を克服する新たな手法「発生タイミング進化的型アルゴリズム」を提案し、従来の進化アルゴリズムと比較して評価することが目的です。

海外にて

今回の国際学会の会場はニュージーランドでした。ニュージーランドのダニーデン空港に到着すると、小さな空港でしたが多くの人々が集まっていました。おそらく到着した人の家族が集まっていた、皆一緒にハグをしていました。そこでさっそく日本との文化の違いを感じました。空港からホテルまでの道中は草原が広がっており、数多くの羊が放牧されています。また、ダニーデンはニュージーランドの中でも南に位置しているため、太陽が夜の10時頃まで上っており、一日が長く感じられました。このようにニュージーラン

ドに到着してすぐに、日本とは全く異なる雰囲気を実感しました。

私の研究発表は3日目の予定だったので、到着した翌日に観光をしました。オタゴ半島で野生のペンギンやアルバトロスという鳥を観察できる観光ツアーに参加しました。野生なので遠くからしか見られませんでしたが、実際にペンギンが巣で子育てをしている光景を見ることができました。アルバトロスはカモメの3倍程の大きさで、船で沖まで行ってやっと飛んでいるところが見られるような珍しい鳥でした。ニュージーランドは自然が豊かで、とても過ごしやすそうな国だという印象を持ちました。

国際学会にて

SEAL2014は進化計算に関する学会です。様々な国から多くの研究者が参加しており、特に私が聴講した講演の研究者は、私が研究室での輪講で勉強した教科書に載っていた手法を提案した方だと知りました。そのような方々と同じ学会に参加できただけでも、大学院まで勉強や研究を頑張ってきた甲斐があったと感じ

ました。一方で、英語の発表をすべて詳細に理解することは難しかったので、英語が得意になるくらいまで勉強したいと考えています。

卒業まで残り少ない時期にこのような大きな学会に参加したことで、最後まで気を抜かずに修論作成に取り組みたいという意欲が生まれました。

最後に

国際学会参加にあたり経済面で支援をしていただいた明専会、平日頃より熱心にご指導くださいました大西圭准教授に厚く御礼申し上げます。(平成27年1月記)



発表の様子